
ワークショップ「き」組 ニュース

第2号 2022年6月20日 発行

<https://kigumi.jp/>

● ごあいさつ

梅雨入りの候、みなさまお変わりございませんでしょうか？長く続いたコロナ禍も少し落ち着きをみせていますが、今年も蒸し暑い季節となりました。

ワークショップ「き」組の「木組ゼミ」も3回目の「美術講座」を終えて順調な滑り出しです。本号では、第二回・第三回の講座の内容と木組ゼミ修了生に招かれて広島で行った講演会の内容を中心に報告したいと思います。

また、代表の松井が若い頃師事した大工棟梁にして建築家協会の会員であった師匠が亡くなりました。これまで書けなかった「木組のモダニスト・小川行夫」の追悼記事も掲載いたします。どうぞお付き合いください。

／代表理事 松井 郁夫

<https://matsui-ikuo.jp/>

● 「美術講座②③」報告

建物デッサンについて（松井）

・デッサンも写生も観察力です。「目を養い、手を練れば」美しい建物をつくる「美」の技術は習得できます。

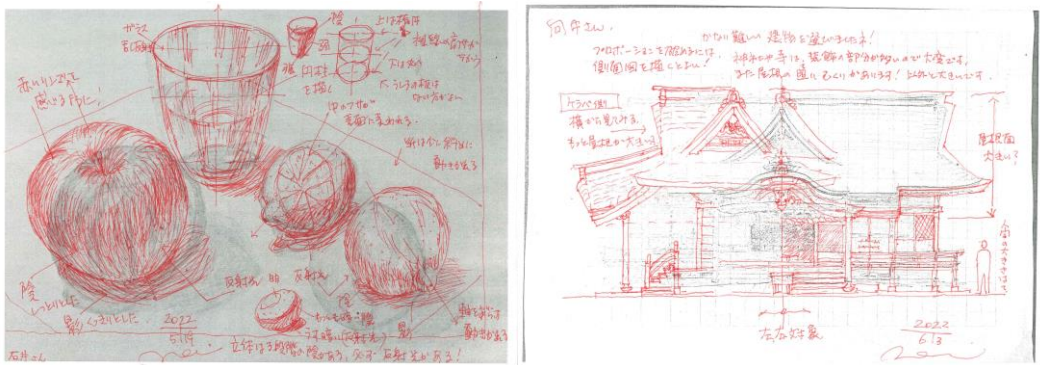
前回からの「静物デッサン②」りんごとレモンと水の入ったコップは、松井が一点ずつ添削しました。描けば描くほど良くなっていくのがわかります。

③回目になる「建物デッサン」は、各自お住まいの場所で、気に入った建物を写生していただきました。

ただし、三次元である建物を立面図のように二次元で描くという課題です。実際の設計段階では、二次元の図をもとに三次元の立体をつくりますが、その逆をたどることで、図面から伝達する情報の大切さを実感してもらうためです。送られてきた一人一人の建物デッサンはじっくり指導いたしました。

難しい神社を選ぶ方や古い民家を選ぶ方が多かったのが特徴です。美しい物は、むかしの建物にあるということでしょうか？

今回は、課題の建物の平面図と外観の概略図に開口部を書き込んでいただきます。建物の外観を魅力的につくることは、美しい町並みをつくることにつながります。



● 「理論講座②③」 報告

5月22日に行われた第19期の「木組ゼミ」はワークショップ「き」組の会員の「田中製材工業 / 俊建築設計室」田中俊章 <https://www.tanakaseizai.jp/>さんと「菱田工務店」菱田昌平 <https://hishidak.com/>にZoomにて対談していただきました。どちらも長野県で活動されている、「き」組のメンバーです。最近、コロナ禍で居住人口の増えた軽井沢周辺で忙しくされています。

田中さんは「木組ゼミ」第一期生で、長野県東御市で創業73年になる製材屋さんですが、設計事務所と工務店も兼業されています。

つくっている「木組の家」はワークショップ「き」組のプロトタイプに忠実で、堅実な仕事売りです。今夏には、木育をテーマとした木の体験複合施設「ミマキウッドラボ」のオープンを予定しています。

菱田さんは、変わった経歴の持ち主で不登校児童から大工になり「削ろう会」のイベントがきっかけでベルギーの大工と知り合い、ベルギー民家の居心地の良さを知りラステイックモダン(素朴派)というジャンルにたどり着きました。

「Timber」と呼ばれるベルギーの伝統的な工法は日本の木組にも通じる魅力的な作り方です。伝統と革新をバランスよく織り交ぜる4種類のブランド化の経営戦略が見事です。詳しくは、添付のお二人のホームページをご覧ください。

6月19日に行われた「理論講座③」は福岡で工務店「悠山創」を運営している宮本繁雄さんの**構造理論**「限界耐力計算」による設計事例をお話していただきました。対談者として龍環境計画の内田文雄さんをお迎えしました。宮本さんは設計者でありながら工務店を開設し、思い通りの建物をつくっています。減衰設計の構造計算をわかりやすく解説をしていただきました。

内田さんは住宅よりも大きな施設の設計を実践していますが、毎回コンペで勝ち取る実力派です。おふたりとも設計**コンセプト**のしっかりした理論派です。今回の木組ゼミには少し難しかったかもしれませんが、「理論講座」としては実践に役立つ充実したお話をいただきました。

●広島講演会報告

5月28日 広島住宅研究会のご招待で、「おりずるタワー」において松井が、「木組の家と古民家のみらい」をテーマにお話させていただきました。

以前「木組ゼミ」に通っていらっしゃった栄花彰子さんのお世話です。

こちらに広島住宅研究会のリンクを張っておきます。

<https://m.facebook.com/groups/hjkhjk/>

次の日は、谷口吉生の建築の名作「広島清掃工場」を見学して栄花さんの古民家再生や佐々岡由訓さんの新築住宅を見せていただきました。

また、ずっとFBFであった腕のいい大工の松尾至峰棟梁にお会いできました。

●追悼「木組のモダニスト・小川行夫」

「木組の家づくり」を教わった師匠が亡くなりました。

知る人ぞ知る元大工棟梁で、建築家の小川行夫は、義父の家を設計した私の先生です。3年に一軒くらいしか建てない寡作でしたが、金物を使わずに木と木を組み上げる伝統の業を見せてくれました。先日わかったのですが、すでに4月4日に亡くなっていました。とても個性の強い人で、一緒に仕事をするのは加藤正志という名人大工しかいませんでした。

私は元建主の娘婿ということで事務所に入れましたが、1年半で破門されました。短い間でしたが、小川行夫事務所で学んだことで、いまがあります。

在籍中に構造事務所の山辺豊彦さんを引き合わせたのが、「ヤマベの木構造」につながっています。阪神大震災の後に書いた「木造住宅・私家版【仕様書】」もここでの体験がなければ、書けなかったでしょう。たくさん職人言葉を教えていただき「木組ゼミ」では、その継続を目的にしています。感謝しても余りある恩師でした。安らかにお休みください。合掌…。

<https://onl.sc/8Nv9hkP>

●メンバー紹介

ワークショップ「き」組に新しいメンバーが入会しましたので、以下に自己紹介文を掲載します。2人とも昨年度の木組ゼミの受講生で、全ての講座を修了しました。これまでに木組の家の実績はありませんが、今後、木組の家づくりを目指す、意欲あるメンバーです。どうぞよろしくお願い致します。

「田中大造建築設計事務所」田中大造（東京都）

<http://www.daizotanaka.com/index.html>

自然環境の循環の中で、自分らしく、心地よく過ごせる家づくりを目指しています。「木組」との出会いはまだ間も無いですが、諸先輩型に習い本設計活動を末永く続けたいです。イキイキ、ワクワク、キラキラと人生を楽しむ方を応援します。

「カジワラホーム株式会社」梶原久夫（愛媛県）

<https://www.kajiwara-home.com/>

当社は、愛媛県四国中央市で 63 年の歴史を持つ住まいの企画・設計・施工企業です。モットーは、家づくりをお考えのお客様に立場に立って、最初の打ち合わせから、設計・施工の各段階はもちろん、完成・ご入居後に至るまで、誠心誠意、心を込めて仕事をさせていただくことです。

まず 1 棟「木組の家」か「古民家再生」にチャレンジしたいと思います。

●編集後記

二回目のメルマガですが、いかがでしたでしょうか？

来年 20 歳になるワークショップ「き」組主催の「木組のデザインゼミナール」は、設計者と山と職人をつなぎ協働できる仲間を増やす実践的な講座です。

これまでに約 200 人のゼミ生を輩出してきました。

「木組の家づくり」を標榜する、山や工務店、設計者が集まり、交流と勉強会で研鑽を重ねる全国の会としたいと思います。

また「美術講座」では、絵を描くことによって美しさを習得するデッサンの添削を「理論講座」では講師の方々に「こだわりの家づくり」について語っていただきます。さらに「木組講座」では、大工と会話のできる設計者の育成を目指しています。「温熱講座」と「古民家講座」も人気があります。

スキルアップを考えている実務者のみなさんのご参加をお待ちします。

お申し込みはこちらから <https://kigumi.jp/seminars>

不定期の発行となりますが、これからもよろしくお願い致します。

(松井郁夫)

本メールは、ワークショップ「き」組のメンバーや「木組のデザインゼミナール」受講生、お取引のあるお客様等名刺交換させていただいた方々にお送りしています。

アドレスの変更や配信停止をご希望の方はお手数ですがその旨返信ください。

一般社団法人 ワークショップ「き」組 事務局

〒165-0023 東京都中野区江原町 1-46-12-102

(TEL) 03-3951-0703 (FAX) 03-5996-1370 (E-mail) info@kigumi.jp